

8) リサイクル型製品設計・製造

【大気保全】

- 1) 低公害自動車技術
- 2) 大気汚染防止の新技术
- 3) 地球規模の大気保全技術

【水質保全】

- 1) 下水・排水の最新技術
- 2) 上水・用水の最新技術

【空気調和・冷凍技術】

- 3) 排熱回収
- 4) 省エネルギー（新技术）

- 5) 省エネルギー（ヒートポンプ）
- 6) 熱輸送
- 7) 新エネルギー
- 8) 環境解析
- 9) フロン・冷媒

併催企画

【特別講演】

東京工業大学理学部 本川達雄氏

【市民フォーラム】

「人とエコ・サイクルの共生を目指して」（仮題）



環境工学部門の功績賞を受賞して

杉島和三郎

ゼネラルエンジニアリング

平成5年7月2日、栄えある環境工学部門の功績賞を受賞し身に余る光栄と存じているところであります。しかしながら、本当に受賞に値する活動をしたかと自問をし本文を綴ってみますと、関係委員の皆様のおかげで思ひ出され、恐縮しているのが実状であります。

そもそも私が環境問題に係わったのは、三菱重工のボイラ設計に配属され難燃物のボイラを手がけたことが始まりであります。その後、都市ごみの焼却プラントに携わり、産業廃棄物処理や廃棄物一般の開発に従事しました。この間、当時の環境工学委員長の都立大平山教授（現千葉工大）を始め多くの方々にご指導やご交誼を頂き、技術的にも人間的にも啓発されることが大なるものがありました。その後鈴木委員長（現法政大）の後を受け63、64期の委員長をお引受けしましたが、各界の優秀な委員の方のお力添えにより無事その任を果たすことができましたわけであります。

これと相前後して機械工学便覧のエンジニアリング編が計画され、C8の環境装置の主査を命じられましたが、環境工

学委員会の委員の方々にお世話になったことが昨日のように思い出されます。また、この頃から検討されておりました委員会の部門化は、後任委員長の農工大柏木教授の精力的な活動により早期にその組織化が進み、現在の活性化の基礎ができたわけであります。その後の歴代委員長や委員の方々のご活躍で、部門活動は更に目覚ましいものがあり、例年開催されている川崎の総合シンポジウムの盛会や、部門の登録数も一時の2000人から3500人を越えようとしているのはその一例と言えるでしょう。ここで関係委員の皆様にご心から敬意を表したいと思います。

地球の環境問題が論議されております昨今、部門に課せられた責務は大なるものがあります。私も微力ながら現在機械学会からの委員の学会会議の環境工学研究連絡委員会に出席する一方、設立準備中の機械学会関東支部の委員長を仰せつかっており、少しでも今回の受賞にお応えできればと考えております。最後になりましたが部門のますますのご発展を祈念しお礼の挨拶とします。

トピックス

音響パワーレベル測定方法（ISO 3740シリーズ）の動向

子安 勝

第1技術委員会（振動・騒音）（千葉工业大学）

機械装置など騒音源からの放射音を規定する基本量として重要な音響パワーレベルの測定方法としては、(1)音圧を測定量とする方法と、(2)音響インテンシティを測定量とする方法との2種類が使われている。このうち、音圧測定から音響パワーレベルを算出する方法は、ISO 3740シリーズとして国際標準化が行われており、わが国でもこれに対応してJIS Z

8732～JIS Z 8734の3規格が制定され使用されてきた。

ただ、ISO 3740シリーズは1970年頃から規格制定の作業が始められており、その後の使用実績や技術的な進歩に対応した見直し改正の要望が強くなった。このため、1986年にISO/TC43/SC1にスタディグループHが設置され、改正の基本方針、日程などが設定された。そして、改正作業を実施するため